

2023年8月23日  
すみだ北斎美術館

## 企画展 北斎のまく笑いの種 | 関連イベント・見どころのご案内

すみだ北斎美術館（東京・墨田区）は2023年9月20日（水）から11月26日（日）まで企画展「北斎のまく笑いの種」を開催いたします。浮世絵師・葛飾北斎（1760-1849）や門人が描いた笑いにまつわる作品を前期・後期あわせて約115点展示する展覧会です。本展の新しい関連イベント情報のほか、展示構成や主な出品作品とともに見どころをご紹介します。

## ARで北斎の戯画が飛び出す！？フォトスポット

会場のQRコードをスマートフォンで読み取りフォトスポットにかざすと、北斎が描いた戯画が飛び出します。展覧会鑑賞とあわせ、記念撮影をお楽しみください。

- ・期間 2023年9月20日（水）～11月26日（日） ※休館日を除く
- ・会場 すみだ北斎美術館 3階ホワイエ
- ・料金 無料（ただし、企画展観覧券か前売券、または年間パスポートが必要です）  
\*AR体験のインターネット通信料はお客様のご負担となります。



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

## 【10月17日～10月27日】北斎が描いた“笑いの種”をしおりにしてプレゼント

思わず笑顔がこぼれる北斎が描いた“笑いの種”4作品のしおりのいずれか1枚を、吉日とされる[天赦日]2023年10月17日（火）を皮切りに10月27日（金）まで、本展をご観覧の方に配布いたします。

- ・配布期間 2023年10月17日（火）～10月27日（金）  
※10月23日（月）は休館日のため、配布はございません。  
※無くなり次第終了、絵柄は選べません。
- ・対象 企画展観覧券か前売券、または年間パスポートをお持ちの方



※仕上がりイメージ

## 北斎の誕生日にしおりをプレゼント！

葛飾北斎は、宝暦十年九月二十三日に生まれました。新暦(\*)では1760年10月31日にあたります。北斎の誕生日にちなみ、2023年9月23日（土・祝）と10月31日（火）の2日間、ご来館の方に『北斎漫画 草筆之部』から大黒天の図をしおりにして、各日先着500名様に配布いたします。

\*日本では明治6年に暦(こよみ)の改暦があり、現在使っている暦(グレゴリオ暦)を「新暦(しんれき)」、それ以前の暦を「旧暦(きゅうれき)」と呼んでいます。

- ・配布日 2023年9月23日（土・祝）、10月31日（火）
- ・対象 常設展/常設展プラス/企画展観覧券、前売券、または年間パスポートをお持ちの方  
各日先着500名様（※無くなり次第終了）



## 本展の見どころ

## ◎笑顔が広がる展示室

世間には、笑顔や照れ笑い、怪しげな笑いにいたるまで多様な笑いの表情や仕草があり、江戸時代の浮世絵作品にも様々な笑いが登場します。本展では、北斎や門人の作品に表現された多種多様な笑顔や、笑いが生まれる状況を捉えた作品などを約115点展示します。

## ◎北斎の戯画シリーズを一堂に展示！

生涯を通じてあらゆるものを描いた北斎は、滑稽な戯画のシリーズも複数描いています。北斎は川柳風の狂句（滑稽な内容の5・7・5の句）も嗜んでいたことから、戯画シリーズにはそうした社会情勢や人々の生活を捉えて表す経験が活かされているのかもしれませんが。

本展では、北斎による戯画シリーズ「鳥羽絵集会」、「風流おどけ百句」、「狂句入戯画集」、「謎かけ戯画集」などから約40図を展示します。このうち32図は当館初公開！北斎が可笑しみを盛り込んで描き出す戯画の世界をご堪能ください。

※次ページにて展示構成と主な出品作品をご紹介します。

## 展示構成と主な出品作品

本展出品作品には、現在では使用が認められない不適切な表現が含まれておりますが、絵師の作画意図をよりよく理解するため、原資料のまま展示・掲載しております。

### 1章 笑顔いろいろ

「笑い」と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか。本章では、一般的に笑いという言葉からイメージしやすい「笑顔」や「芸人」などに焦点を当て、七福神や遊ぶ子どもなど笑顔の象徴ともいえる対象が描かれた作品や、芸人や狂歌師など笑いをあたえる人が描かれている作品をご紹介します。

#### 笑顔の象徴：七福神



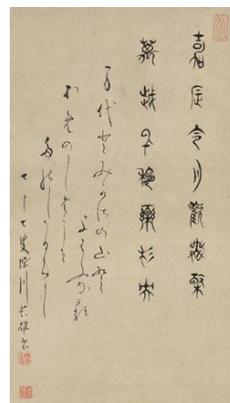
葛飾北斎『北斎漫画 草筆之部』すみだ北斎美術館蔵（通期）※1

福袋と打出の小槌（うちでのこづち）を持ち、俵に乗った笑顔の大黒天が描かれています。七福神の一柱として親しまれている大黒天はインド由来の神で、凶暴な戦闘神ともされてきましたが、日本に渡り温和なイメージになったといわれています。大国主命（おおくにぬしのみこと）との習合により純和風の姿も一般化し、子（ね）の神とも習合して鼠を使いとするイメージも持たれるようになったと伝わります。

※1 半期で同タイトルの作品に展示替えをします。

#### 笑いを生み出す人々：万歳（まんざい）

万歳は初春に家々を訪問して祝う祝福芸です。烏帽子（えぼし）を被り大紋の直垂（ひたたれ）を着た太夫と、鼓を持つ才蔵の二人が、各家の門口などで鼓を鳴らしながら祝いの歌を歌い新年を祝しました。



葛飾北斎「万歳図」すみだ北斎美術館蔵（前期）

本作は北斎壮年期（1800年頃：北斎40歳頃）の肉筆画の優品です。新年を寿ぐ万歳と門松が描かれており、中央が太夫、右手が才蔵です。賛は曲亭馬琴の師とされる学者の小柴長雄の書と思われ、『和漢朗詠集』にある「嘉辰令月歡無極 万歳千秋樂杉（未カ）央」（めでたい時節にあたり喜びは限りなく、いつまでも楽しみは尽きることがない）、「万代と三笠の山ぞ呼はふなるあめのしたこそたのしかるらし」（三笠山の方から万歳と叫ぶ声が聞こえるのは、太平の世の到来を喜ぶしるしでしょう。楽しいことではないか。）の2首が記されています。

## 笑いを生み出す人々：狂歌師

和歌の形式に卑近通俗な機知や滑稽を詠み込んだ戯れ歌である狂歌を詠む人を狂歌師と呼びます。狂歌は高度な教養を要求するものであり、当初は江戸市民には受け入れられにくいものでしたが、代表的な狂歌師である四方赤良（よものあから、大田南畝、蜀山人）を中心とした天明狂歌の流行を機に大衆層に広がっていきました。



葛飾北斎『五拾人一首 五十鈴川狂歌車』すみだ北斎美術館蔵  
右：式亭三馬、左：十編舎一九（通期）※1

本書は、北斎が挿絵を担当した狂歌絵本です。戯作者であり狂歌師の顔も持つ式亭三馬や、十返舎一九の肖像が描かれており、それぞれの狂歌が添えられています。なお三馬は、名前にかけて歌舞伎の顔見世や、狂言、神楽などでも舞われる儀式舞踊「式三番」を舞う姿で描かれています。

## 2章 多種多様な笑い

笑うときには、ただ目を細めて口角を上げるだけでなく、口元を隠したり、指差したりすることもあります。また、ひとえに「笑い」といっても、嘲笑や照れ笑いなど様々な種類の笑いが存在します。本章では北斎や門人による笑っていることを示す表現や、笑いの種類をご紹介します。

### 指さす先に笑いの種

北斎や門人の作品には、指を差しながら、眼を細め、口を緩ませる表情をしている描写がみられるものもあります。この場合、指さす先に笑いの対象が存在することがあります。



葛飾北斎『男踏歌』すみだ北斎美術館蔵（後期）



本書は、北斎、喜多川歌麿、鳥文斎栄之らが挿絵を描いた狂歌本です。北斎は、行楽中の人たちの様子を描いています。風呂敷の荷物を持つ女性のうち、左の女性は口元に手を当てて微笑み、面白半分に後ろに重心をかけているようにみえます。それに気付いた少年は、笑いながら指を差して他の人にも知らせています。

### 怪しい笑い

楽しさや面白さを感じた時の笑顔とは異なり、口角は上がっているのに薄気味悪さを感じさせる笑いの表情も存在します。北斎による背筋が凍るような笑いの表現をお楽しみください。



葛飾北斎「百物語 こはだ小平二」すみだ北斎美術館蔵（前期）

江戸時代に流行した怪談遊びである「百物語」を題材にしたシリーズの一図です。こはだ小平次は、江戸時代に発生した怪談話の主人公で、怪奇小説や歌舞伎などに脚色されて人気を博しました。リアルな骸骨が上目遣いで口の端を上げる表情は、背景の薄暗さも相まって不気味さを感じさせます。

### 3章 北斎と門人が描く戯画の世界

多様な「笑い」の表情や仕草を捉えて表現してきた北斎や門人たちは、滑稽的、風刺的な戯画も描いています。とりわけ、北斎は戯画のシリーズまで描いており、北斎自らが人々に笑いを与える役目も担っています。本章では、北斎や門人たちが生み出した戯画の数々をお楽しみください。

#### 餅は餅屋



葛飾北斎『北斎漫画』十二編 餅八餅屋 すみだ北斎美術館蔵（通期）

「餅は餅屋」とは、餅屋がつくった餅の出来が良いように、専門家が一番であるということわざです。本図では、餅つきに慣れていない人たちが餅をつく様子が描かれています。左上には形が崩れている鏡餅が描かれています。また、もち米を蒸す竈（かまど）からは黒い煙が漂っており、手際の悪さが強調されています。

#### 戯画シリーズ：「狂句入戯画集」

画中に記された狂句を鳥羽絵の形式で絵画化した横小判（約 11.5×17.5cm）のシリーズで、現在 20 図が見つかっています。全て無款で、シリーズ名の記載もみられません。本展出品作品に版元印はありませんが、同シリーズに版元印を持つ作品があり、「風流おどけ百句」や「謎かけ戯画集」と制作年代が近いと考えられています。本展では前後期あわせ、このうち 10 図を展示します。



葛飾北斎「狂句入戯画集 坂東善次投られて渋ひ面」すみだ北斎美術館蔵（後期）

坂東善次（初代）は、悪役や半道敵（はんどうがたき、おどけた仕草をする悪役）を多く演じた歌舞伎役者です。善次が投げられると渋ひ顔になることを意味する狂句を題材にした本図では、主役が悪役と思われる人物を投げ飛ばす様子が描かれており、投げ飛ばされている役者は、渋ひ顔といいながら、やや口角が上がった顔をしています。

## 戯画シリーズ：「風流おどけ百句」

画中に記された狂句のイメージを鳥羽絵の形式で絵画化した横小判のシリーズです。版元は伊勢屋利兵衛で、文化8年(1811)を中心に刊行されたと考えられています。このシリーズの作品の多くは図中にシリーズ名が表記されていますが、表題・狂句無表記で本シリーズとみられる図も含め、現在39図が確認されています。本展では前後期あわせ、このうち19図を展示します。



葛飾北斎「風流おどけ百句 炎天にすべるを見れば瓜の皮」すみだ北斎美術館蔵（通期）※1

路面が凍る冬ではなく、真夏に滑っている人がいると思ったら、瓜の皮が原因だったという狂句を題材にしています。本図では、瓜を売る人と瓜を食べる人の目の前で、転んでいる人物が描かれています。

## 戯画シリーズ：「謎かけ戯画集」

シリーズ名の表記はみられませんが、画中に書かれた謎掛けを絵画化した横小判のシリーズです。版元は伊勢屋利兵衛で、現在32図が確認されています。落款のほか、見物人に謎を出題させ、即座に解いて銭を乞う謎坊主が描かれており、その興行が文化11年(1814)から浅草で始まったことから、文化年間(1804-18)の後期頃に刊行された可能性が指摘されています。本展では前後期あわせ、このうち8図を展示します。



葛飾北斎「謎かけ戯画集 眼鏡屋とかけてなぞ坊主とく心ハみな人がかけて見たがる」すみだ北斎美術館蔵（後期）

「眼鏡屋とかけて謎坊主とく、その心は、眼鏡屋の眼鏡は皆が掛けてみたがり、謎坊主には皆がお題を出して謎を掛けてみたがる」といった意味の謎掛けが記されています。本図は、これを題材に、小僧が眼鏡を掛けて目が大きくなった人を見て、指差しながら笑う様子が描かれています。

### 「北斎のまく笑いの種」リーフレット

本展の見どころをたどることができる本展オリジナルリーフレットを、9月20日（水）から発売します。江戸時代のお笑いや、北斎が狂句を嗜んだことなどについて解説するコラム「話の種」も一部収載！

- ・価格 350円（税込）
- ・形態/ページ数 A4縦長8ページ（オールカラー）
- ・発売日 2023年9月20日（水）
- ・販売場所 すみだ北斎美術館1階ミュージアムショップ



報道関係の  
お問い合わせ

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ  
野田 / 中原 / 林 / アシスタント高橋  
TEL 03-6658-8991 / FAX 03-6658-8992  
Email hm-pr@hokusai-museum.jp



# 企画展「北斎のまく笑いの種」 展覧会広報用 作品画像請求紙

画像のお申込みにあたり以下の注意事項を必ずご一読いただき、全て遵守をお願いいたします。

◀ 画像貸出に関して注意事項 ▶

- ・ 作品画像を使用の際は、クレジット全文（作家名・作品名・所蔵先・展示期間）の表記が必須となります。
- ・ 画像は記事などで本展をご紹介いただける場合に限りご利用いただけます。  
本展の広報に関わらない出版物や映像への使用・転載、商業利用はできません。
- ・ 画像の複製・貸与・頒布・配布・販売などはお断りいたします。
- ・ 画像は全図でご掲載ください（部分図のみの使用は不可となります）。
- ・ ご使用後は、画像データの破棄をお願いいたします。
- ・ 展示作品は都合により変更することがあります。

ご希望の画像にチェックをお願いいたします。

- 企画展「北斎のまく笑いの種」チラシ表面
- 企画展「北斎のまく笑いの種」横長バナー（1366px×500px）
- しおり4種：北斎が描いた“笑いの種”
- しおり：北斎が描いた大黒天
- 葛飾北斎『北斎漫画 草筆之部』すみだ北斎美術館蔵（通期）※1
- 葛飾北斎「万歳図」すみだ北斎美術館蔵（前期）
- 葛飾北斎『五拾人一首 五十鈴川狂歌車』すみだ北斎美術館蔵 右：式亭三馬、左：十編舎一九（通期）※1
- 葛飾北斎『男踏歌』すみだ北斎美術館蔵（後期）
- 葛飾北斎「百物語 こはだ小平二」すみだ北斎美術館蔵（前期）
- 葛飾北斎『北斎漫画』十二編 餅八餅屋 すみだ北斎美術館蔵（通期）
- 葛飾北斎「狂句入戯画集 坂東善次投られて洗ひ面」すみだ北斎美術館蔵（後期）
- 葛飾北斎「風流おどけ百句 炎天にすべるを見れば瓜の皮」すみだ北斎美術館蔵（通期）※1
- 葛飾北斎「謎かけ戯画集 眼鏡屋とかけてなぞ坊主ととく心ハみな人がかけて見たがる」すみだ北斎美術館蔵（後期）

※1 半期で同タイトルの作品に展示替えをします。

貴社名
貴媒体名
部署名   ( 役職名 )
ご芳名
ご連絡先 TEL   FAX   E-mail
ご掲載・放送予定 月 日
備考   ※ご要望などございましたらご記入下さい。



報道関係の  
お問い合わせ

すみだ北斎美術館 広報・プロモーショングループ  
野田 / 中原 / 林 / アシスタント高橋  
TEL 03-6658-8991 / FAX 03-6658-8992  
Email hm-pr@hokusai-museum.jp

